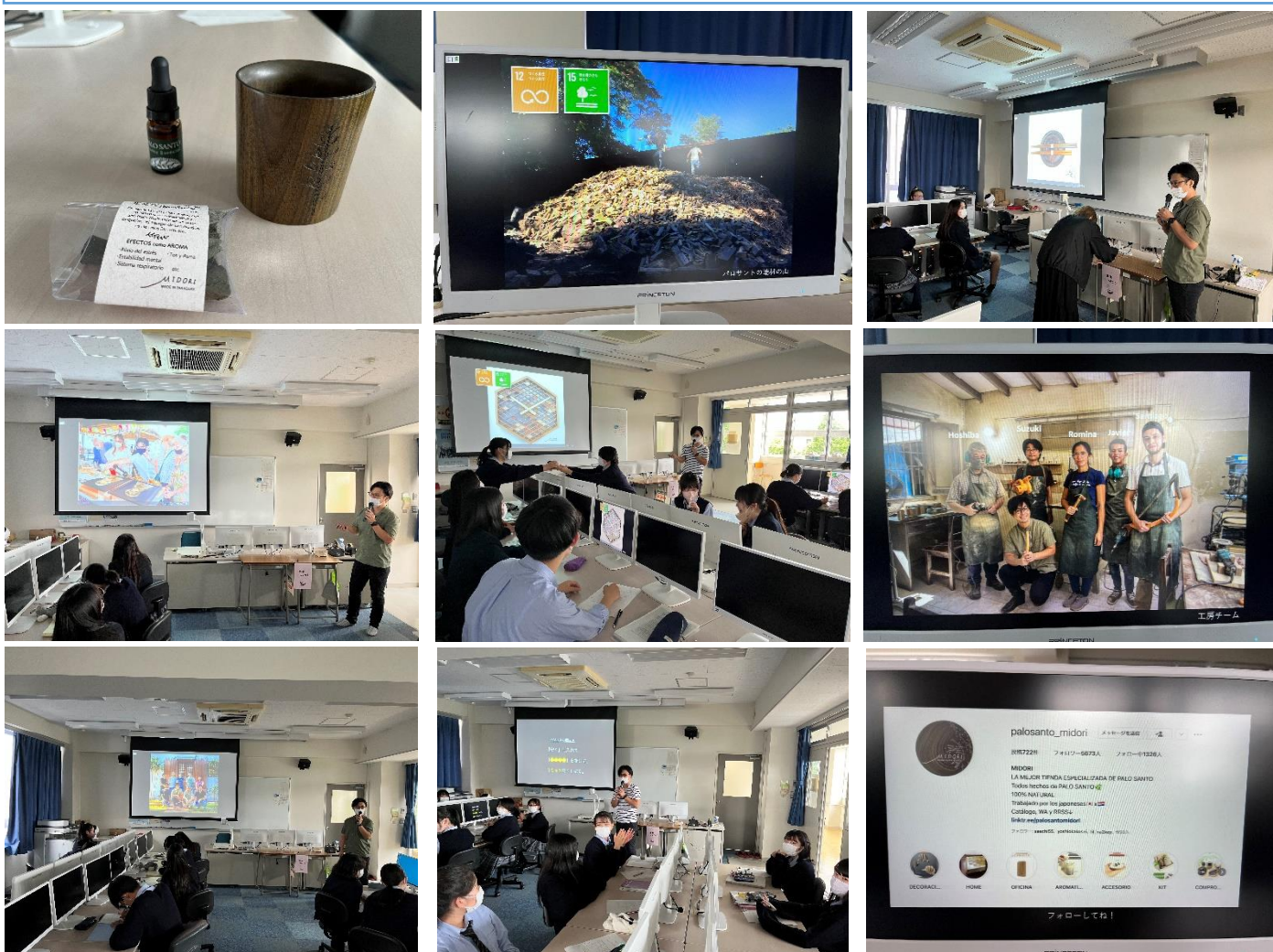




5月中旬、3学年の課題研究「ソーシャルビジネス」では、南米パラグアイで『Palo Santo MIDORI 工房』を起業されている立川巧雪さんを講師に迎えて、「海外でみつける、あらたな価値」というテーマでお話をさせていただきました。Palo Santoとは「聖なる木」という意味を持つパラグアイの人々にとって特別な木だそうで、古くから油分を抽出してアロマオイル、木材として建築や家具、雑貨や調度品、さらには虫除けなどにも使われるということです。今回、立川さんをお呼びした理由は、工房の商品は現地の工場から出た端材を安く仕入れて作られていて、かつ、現地のパラグアイ人の方を雇用されているという、まさに「ソーシャルビジネス」であり、講座のテーマである「ビジネスの力で社会課題を解決しよう」を実践されている方だからです。当日は商品のお香やアロマオイル、カップなどを持ってきていただき、生徒は実際に手に取って匂いを嗅いだり触ったりしてPalo Santoの商品に興味津々でした。

また、起業してから今現在までの立川さんが経験した「成功と成長」と「絶望と失敗」、「ビジネスの面白さ」、「ビジネスの超基本」などを、グラフや表を使って分かりやすく楽しくお話させていただきました。特に「MIDORIの付加価値」についての内容は、生徒たちには大変勉強になったと同時にとても貴重な講演を聴くことができました。



【男子生徒の感想】

初めてソーシャルビジネスで起業されて方のお話を聞くことができ、成功のポイントや体験談がとても勉強になりました。ソーシャルビジネスで起業することは簡単でも続けていくための努力が必要だと知ることができました。